

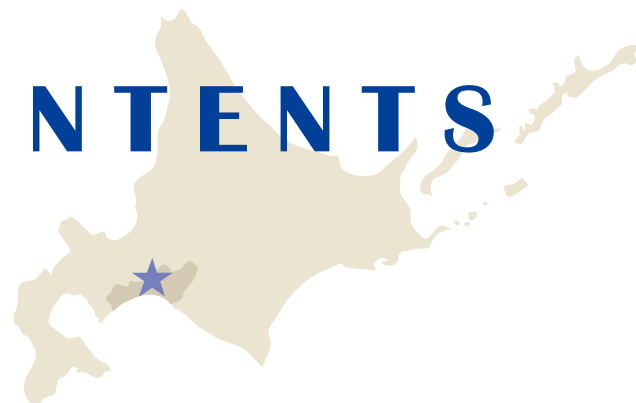
「地域生活支援拠点等の整備等に関する実態調査」
各自治体等の概要版

北海道 東胆振圏域

(苫小牧市・白老町・厚真町・
安平町・むかわ町)

目次

CONTENTS



2

| **01** | 東胆振圏域（苫小牧市・白老町・厚真町・安平町・むかわ町）の概要

3

| **02** | 地域生活支援拠点等の整備プロセス、整備類型、概要

4

| **03** | 各機能の具体的な内容

6

| **04** | 地域生活支援拠点等のイメージ図

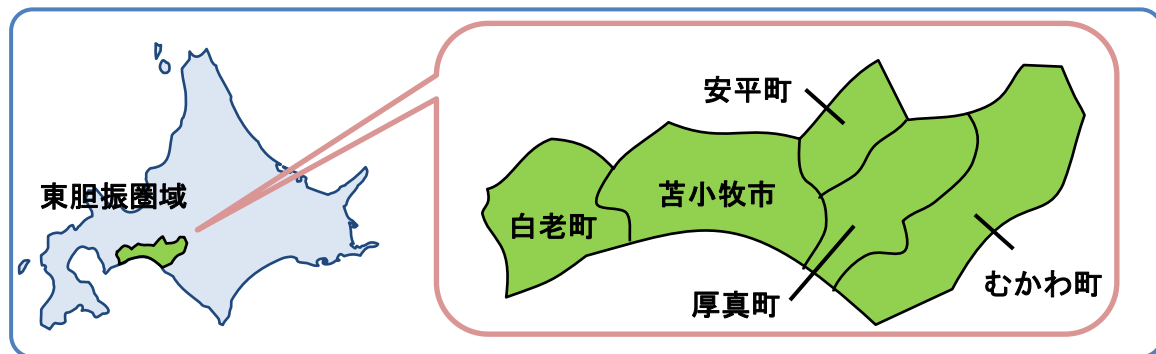
7

| **05** | 地域生活支援拠点等における支援の事例

8

| **06** | 地域生活支援拠点等の整備・運営における今後の課題・方針

- 人口 214,705人（平成27年7月1日現在）
苫小牧市174,064人、白老町18,378人、厚真町4,711人、安平町8,555人、むかわ町8,997人
- 障害者の状況（平成26年3月末現在）
 - ・身体障害者手帳所持者 14,245人
苫小牧市10,991人、白老町1,715人、厚真町292人、安平町511人、むかわ町736人
 - ・療育手帳所持者 1,902人
苫小牧市1,426人、白老町231人、厚真町60人、安平町65人、むかわ町120人
 - ・精神障害者保健福祉手帳所持者 1,159人
苫小牧市850人、白老町158人、厚真町12人、安平町32人、むかわ町107人
 - ・障害者の全体数は微増、平成25年度以降大きな変化なし
 - ・知的障害施設入所者の高齢化が進行
- 東胆振圏域の位置



02 地域生活支援拠点等の整備プロセス、整備類型、概要

整備のプロセス

- 精神障害者の地域生活支援向上のため、平成27年1月に医療・福祉の4法人が合同でNPO法人ラポルトを創設
- 同年4月に地域生活支援の拠点として開設された「苫小牧地域精神保健福祉拠点センター」内に事務局を設置。東胆振圏域地域生活支援拠点事業の受託に併せて、対象の地域・障害種別を拡大
- 平成27年11月に、「東胆振圏域地域生活支援拠点事業運営協議会」を設置し、東胆振圏域としての拠点等の方針等を1市4町で協議を図る

整備類型

面的整備型

（「苫小牧地域精神保健福祉拠点センター」を中心に、圏域内資源と連携する面的整備）

概要

- 東胆振定住自立圏の中核を担う苫小牧市を中心に、5つの機能を整備
- 緊急時の受け入れとして空床確保はせず、圏域内の施設情報を入手したり、地域生活支援拠点施設での「ソフトな救急体制」で対応
- 相談支援専門員の積極的な情報収集により民間資源を活用した居住支援を実施

相談

- 時間外、休日は、職員 3 人が携帯電話で24時間相談受付
- 出向職員のうち 1 人がコーディネーターを担い、福祉サービスの利用援助や支援機関や施設・事業所等の情報を提供
「地域生活支援拠点コーディネーター」の配置経費：
苫小牧市600万円、200万円を4町で按分（4分の1を均等割、4分の3を人口割）
- 地域の関係機関（医療機関、訪問看護事業所、訪問介護事業所など多種による訪問支援チーム）と連携した支援体制の構築を目指す

緊急時の受け入れ

- 相談支援専門員が東胆振圏域内の短期入所（1市4町で13か所）の中から受け入れ先を探して日程調整
- 空きがない場合、受け入れ場所が確保できるまで「苫小牧地域精神保健福祉拠点センター」で預かるなど柔軟に対応
- 夜間緊急時は、「苫小牧地域精神保健福祉拠点センター」のリフレッシュルームにソファベッドを置いて法人の専門職が一晩見守るソフトな救急体制を実施

体験の機会、場

- 「苫小牧地域精神保健福祉拠点センター」にて、食事・入浴・日中活動・交流など、地域生活の体験を実施
- 地域のグループホームも活用し、宿泊体験機会を実施
- 料理や洗濯体験が可能な物件も提供（費用はオーナーとの調整で日割り。「無料でよい」という良心的オーナーもいる）
- 当事者が小さい子どもの場合、「短期入所やデイサービスの利用により、将来的に独り立ちができるようにしたい」と考える親が増加傾向
- 家族や本人が宿泊体験をイメージできるよう、ホームページに受け入れ場所の詳細情報（雰囲気、医療的ケアができるなど）の提供を検討中

専門的人材の確保・養成

- 東胆振圏域指定相談支援事業所連絡会議で、計画相談支援事例検討会等を行い、事業所間の情報共有と資質向上を図る
- 平成28年度からピアヘルパー養成講座を実施、ピアスタッフとして活動中。平成29年度からスキルアッププログラムも実施、在宅サービスまで広げることが目標

地域の体制づくり

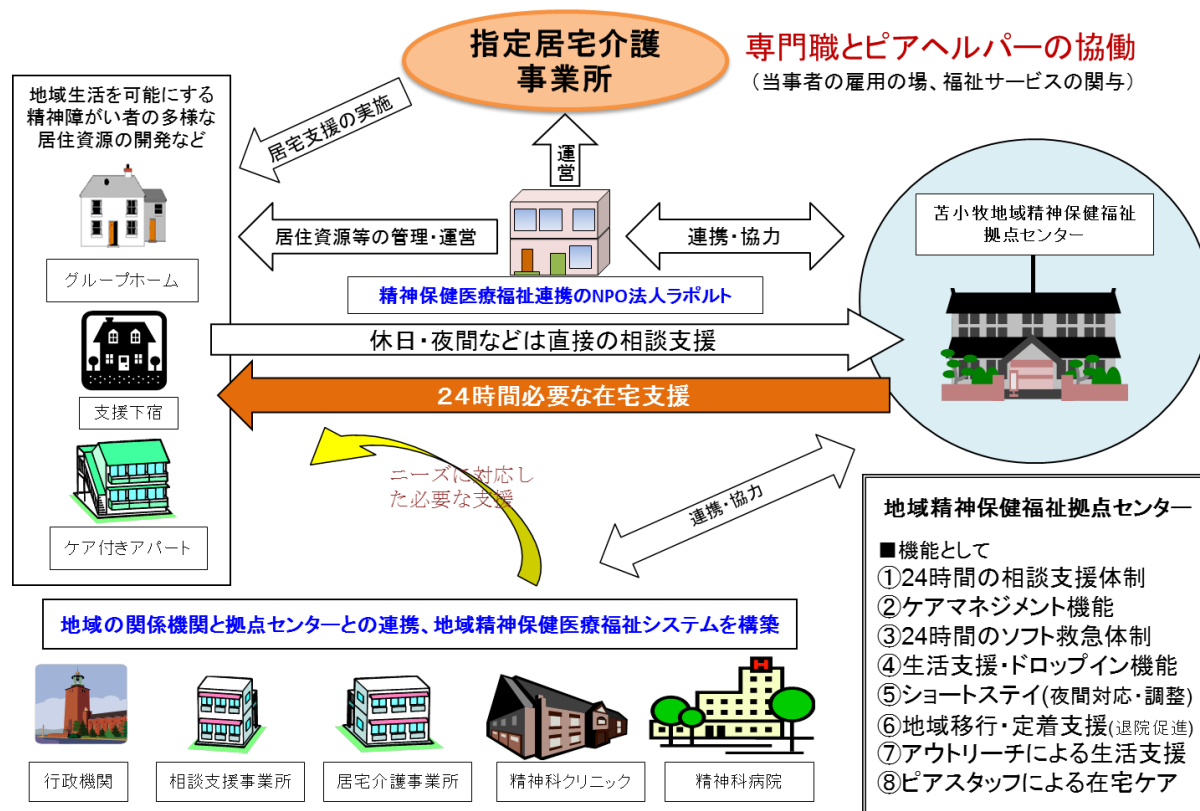
- 「苫小牧地域精神保健福祉拠点センター」を中心に1市4町、関係機関、相談支援事業者、当事者、家族等による「生活支援ネットワーク会議」を組成
- 胆振全体を管轄する事業所と東胆振とで連絡協議会を組成。将来的な東胆振圏域の地域自立支援協議会立ち上げを視野

その他

- 居住支援事業：相談支援専門員が日頃から情報収集し、障害者も入居できる民間アパート・下宿等の一覧表を作成・更新し、圏域内のグループホームの空き情報と共にホームページに掲載

- 「苫小牧地域精神保健福祉拠点センター」を中心とした面的整備
- 居住支援事業として、相談支援専門員が障害者も入居できる民間アパート・下宿等の一覧表を作成・更新し、ホームページに掲載

苫小牧地域精神保健福祉拠点センターの機能とイメージ



利用事例

1

利用者の属性

- ・60代男性。療育手帳B。頸椎症による四肢の筋力低下で移動は歩行器を使用

利用した経緯

- ・苫小牧市の障害者支援施設に入所して暮らしていたが、他害行為等を繰り返し、他の利用者への影響が大きい状況だった。圏域外の精神科病院を受診し、現在は病院に入院している。町より退院支援にかかる相談として地域生活支援拠点等に依頼があり、支援を開始

利用の効果等

- ・病院でのケア会議に出席し、医療機関との関わりを継続できるよう、なるべく現在入院中の病院から近い入所施設を探している。町とも連携しながら、施設の空き情報の提供等、早期の退院を希望する本人に早い段階で見通しを伝えることができた

● 強度行動障害の受け入れ

東胆振圏域に強度行動障害に対応可能な法人はあるが、法人内の利用者で手一杯で外部への対応は難しい。既存のグループホームでは他の入居者への配慮から受け入れが難しい

● 医療的ケア児・者の受け入れ（短期入所）

東胆振圏域に医療的ケア児・者の短期入所がない。札幌市の施設を利用する人が多いが、北海道全体でも事業所が少ないため、かなり前から予約が必要である

現在日中の医療的ケアは2か所の訪問看護ステーションが対応しているが、制度の範囲内では1.5時間しか利用できない。家族はレスパイトも含めた長時間利用や宿泊利用ができる短期入所を要望

● 1市4町のエリアの広さへの対応

遠方への緊急時対応が課題（「苫小牧地域精神保健福祉拠点センター」から、むかわ町まで車で40分～2時間、白老町まで車で30分～1時間、安平町まで車で約1時間）

4町から、「日中活動に通うのも時間がかかるので難しい」という声もある